

## 委員会視察報告書

委員会名	議会運営委員会・予算決算常任委員会
視察地	東京都墨田区
調査項目	1 行政評価について 2 議会改革の取組について
調査目的	墨田区における行政評価制度の手法や効果等を調査し、本市議会における決算審査や施策・事務事業評価の参考とすること。また、議会改革度ランキング上位の墨田区議会における議会改革の先進的な取組について、その手法や効果等を調査し、本市議会における今後の議会改革の取組の参考とすることを目的に視察を行った。
日時	令和4（2022）年8月4日（木）午後2時～4時
場所	墨田区役所
調査概要	<p>視察の冒頭、木内墨田区議会議長から「墨田区議会は通年議会を採用している。私どもの議会改革の取組が少しでもお役に立てればありがたい」との御挨拶を頂いた。</p> <p>佐藤議会運営委員長が「柏崎市議会もまだ取組を始めたばかりであり、墨田区議会の先進的な取組を学び、活かしたい」と挨拶した。</p> <p>行政評価に関しては、墨田区企画経営室より、議会改革に関しては墨田区議会事務局より、それぞれ説明いただき、質疑に関する回答を受けた。</p> <p>1 行政評価について【別添資料を参照】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の概要、分類 事務事業評価（補助金評価を含む）及び施策評価。</li> <li>・取組における特徴 <ul style="list-style-type: none"> <li>①H30年度～評価方式のリニューアルにより、「事業カルテ」方式導入による課題の洗い出しと人的コストの反映。</li> <li>②外部評価の実施方式変更により、委員会開催方式からインターネット上での意見募集形式へ。</li> </ul> </li> </ul> <p>2 議会改革の取組について【別添資料を参照】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議会のあり方検討会を設置（H19.8～）</li> </ul>

- ・議会改革検討委員会を設置（H25.3～、H27.12～）
- ・議会改革特別委員会を設置（H29.5～）
- ・墨田区議会基本条例制定（H31.5.1施行）
- ・制定後、見直し手続きを進めている。

最後に、星野予算決算常任委員長が「特に行政評価においては、平成19年度からの様々な取組、コロナ禍でのインターネットの活用など、新たな試みを行っていることについて、大変参考になった。議会事務局による提案制度も今後勉強していきたい。」と今後の抱負と感謝を述べた。

視察の様子



質 疑 応 答	<p>1 行政評価について</p> <p><b>質問</b>外部からの意見を議会としてどう取り扱うのか。</p> <p><b>回答</b>まだ去年始まったばかり。現段階では、委員（議員）が委員会審査等の中で活用している。</p> <p><b>質問</b>インターネットによる取組は、区民から評価をいただくのか、意見をいただくのか。</p> <p><b>回答</b>どちらかと言えば、意見をいただくようになっている。</p> <p><b>質問</b>アウトカム評価について。指標の立て方と妥当性は。</p> <p><b>回答</b>区民にできるだけ分かりやすい指標の立て方を心掛けている。指標の立て方、設定は、非常に重要であり、難しい。</p> <p><b>質問</b>事務事業評価に当たって、人件費コストをどのように計算して組み入れているのか。</p> <p><b>回答</b>基本的には区の基本的な給与の平均単価を計算している。財務諸表からでなく、あくまで見込みとして入れている。</p> <p><b>質問</b>内部評価から外部評価に移行していく上で、区の業務担当部署の内部評価と、区民の外部評価の差異が生じるのではないか。</p> <p><b>回答</b>先程も回答したが、まだ取組を始めたばかりであり、どちらかと言うと、区民の皆様からの興味のある施策についての御意見を伺うという段階になっている。内部評価と外部評価の違い、行政と区民の意見との違いなどは、まだ分析していない。</p> <p>2 議会改革の取組について</p> <p><b>質問</b>議会事務局からの提案制度について。具体的な事例は。また、事務局の体制について。</p> <p><b>回答</b>事務局からの提案というより、当時の熱心に取り組みされていた副議長からの提案が主なものだったと記憶している。事務局は合計13名の体制で運営している。異動は通常3～5年。専門的な係長は10年程度在籍するケースもある。法務担当（必要な事務）は、事務局の担当と総務課と連携して行っている。</p> <p><b>質問</b>通年議会を行っているが、議会改革に関する議案提出のタイミングは。</p> <p><b>回答</b>年度の各定例議会の行われるタイミングにおいて、状況に応じて提出している。</p> <p><b>質問</b>提案の手続き的なことを教えてほしい。</p> <p><b>回答</b>各会派に事前にある程度の相談を行い、会派会議で一定の</p>
---------	---

	<p>理解をいただいた上で、議会運営委員会で決定していくことになる。</p> <p><b>質問</b> 専決処分の取り扱いについて。また、それに対する説明は。</p> <p><b>回答</b> 緊急性を要するなど、一般的な専決処分の規定に沿って行っている。ただし、通年議会を採用してからは、説明の必要な議案は本会議で提案を行っている。</p>
<p>委員会所感 (50音順)</p>	<p><b>【秋間委員】</b></p> <p>(1) 行政評価について</p> <p>事業評価について、職員の内部評価を行ってから外部評価を区民よりインターネット等で評価をもらっているとのことで、昨年からは始まり11件の評価があったとのこと。子育て・若者・カーボンニュートラルなどだった。町田市もそうだが新しい観点から行政評価をしてもらうことは直接、区民の声で評価してもらうため、率直な意見が多くなると思うし、柏崎でも新しい試みに挑戦してもいいのではないかな。</p> <p>(2) 議会改革の取組について</p> <p>区民184人のアンケート結果が評価すると、概ね評価するが合わせて52%、あまり評価しないと評価しないが24%、残りはどう評価するのか分からない結果とお聞きしたが、柏崎はもっと悪いかもしれない。</p> <p>議会だよりはB4版1枚だが要点がまとめられ見やすいと思った。</p> <p>議会事務局の提案制度は言われてみれば聞いたことが無い制度かなと感じ、議会に対し議員より様々な事柄を熟知している職員の提案制度はある意味画期的な制度ではないだろうか。ぜひ柏崎も支障のない程度に採用すべきと思った。</p> <p><b>【阿部委員】</b></p> <p>墨田区では近年、議会改革度ランキングが常に上位(23区1位)であり、外部講師による研修会やパブリックコメントなど、議会改革に取り組む姿勢を学ぶことができました。</p> <p>柏崎市議会としても、議会PDCAサイクルを行い、定期的な条例の見直し方法を構築する必要があり、課題に対して調査、研究を行います。</p> <p><b>【笠原委員】</b></p> <p>行政評価について、内部評価結果を公表し、区民等による</p>

外部評価を平成22年から行っている。評価方式を評価重視方式から事業カルテ方式へ変更し、人件費を決算額に反映させることで総事業費を算出している。議会として決算審査において非常に理解しやすいシートを作成されており参考になった。

議会改革の取組では、議会事務局による提案制度がとくに先進的であり、議会側からの要望により実現したということで、議会運営するためには非常に重要なことと感じ、柏崎市でも取り組めればと考える。

#### 【佐藤和典議会運営委員長】

行政評価については、区職員の内部評価を行った後、公表し、それを基に外部評価を区民より行ってもらっている。令和3年度からはインターネットで評価をもらっている。委員会方式からの変更だが、ダイレクトに区民に評価してもらうため、率直な意見が多くなると考える。柏崎市でも市民による外部評価を参考にしてもよいのではないかと考える。また、行政評価については、「評価重視方式」から「事業カルテ方式」に変更し、決算額に「人件費」を反映させていることが参考になった。墨田区は、先に紹介した「議会改革度調査」で、東京都区内1位、全国で41位にランキングされた。前日に訪問した町田市同様に、ここまでの成績を収めるためのノウハウはどこにあるのか探るべく意見交換に参加した。弛まない議会改革のPDCAサイクルでの見直しがかぎと見る。特筆すべきは、全国発である「議会事務局による提案制度」を議会基本条例の中に明文化していることである。議員の資質向上はもちろんのことであるが、職員のモチベーションアップ、責任感のアップ、政策立案能力アップなどの効果があり、柏崎市議会も制度導入を研究するべきと考える。

#### 【佐藤正典委員】

墨田区議会は平成31年5月1日から議会基本条例を施行し、現在に至るまで改革に取り組んでいる。その従前から議会改革特別委員会を設置して検討を重ねてきていることなどから、墨田区の議会改革に対する力の入れ方が理解できる。

個別には、議会事務局による提案制度（明文化したことは全国発）や、議会PDCAサイクルの構築などが先進的であると感じた。議会改革度ランキングが全国的に上位であり、23区では4年連続1位であることは、改革の取組において歩みを止めないことが評価されているのだと、説明を聞いて

感じた。

行政評価については、「事業カルテ方式」を採用し、決算額に「人コスト」を反映させていることが参考になった。

最後に、本視察にあたり、墨田区議会基本条例に係る検討課題など、多くの詳細な資料を準備いただいたことに、感謝を申し上げたい。

#### 【重野委員】

事務事業における内部評価でアウトカム評価を記していることは、その視点をもって評価しているということなので見習うところだと思う。外部評価や議員からの評価などの課題はあるようだが、内部評価の在り方としては学べるところである。また、墨田区議会は柏崎市議会と同様に通年会期制をとっている。そして、そこでの専決処分はゼロとのことである。このことについては現在柏崎市議会でも検討しているところであるが、取り入れられることであり、目指す方向でもあると思う。さらに、休日や夜間に委員会を開催するなど、住民へ開かれた議会を目指していることも学べるところである。

#### 【白川委員】

「事務事業評価における内部評価と外部評価」の関係性に着目した。行政評価の【目的】は『①区民本位の効率的で質の高い行政運営を実現する②区民の視点に立ち、成果重視の行政運営を実現する③区民に対する行政の説明責任を果たす』という3点で、行政本位の運営となりがちな施策や事業を常に住民中心で振り返る仕組みの重要性を再認識できた。区職員による事務事業評価、施策評価を実施する「内部評価」の結果を公表し、区民等から評価を受ける「外部評価」の積み重ねがより良いまちづくりに向けて、有効に機能していくと考える。柏崎市においても試行できるよう、同規模自治体や県内自治体の動向を注視して調査研究を継続していきたい。

#### 【田邊委員】

墨田区議会では平成30年に議会基本条例を制定されてから令和元年5月に施行し、現在に至るまで取り組んできている。その中でも議会事務局による提案制度があり、明文化をして規定したのが全国初ということを知り、非常に積極的に取り組んでいるということが理解できた。

令和2年のマニフェスト大賞にノミネートされたり、議

会改革度ランキングでも常に上位にいるなどかなり先進的な取組をされていることが理解できた。

#### 【布施委員】

墨田区議会における議会改革の取組について、東京スカイツリーの完成によって一気に街のイメージが変わった墨田区であるが、議会の中も変わってきたことが今回の視察から分かりました。

平成19年議会のあり方検討会設置に始まり、29年には議会改革特別委員会を設置など議会改革への取組がよく分かりました。

行政評価においても町田市ほどではないにせよ人件費への公会計制度導入により、単純にいくら執行しただけの評価だけでなく人件費にいくらというように行政評価を行っていることは当市も参考にすべきと考えられましたし、より深い行政評価への洞察につながるものとして非常に参考になりました。

また最も特筆すべき点として議会事務局による提案制度が今回の視察の中で最も参考となりました。

#### 【星野正仁予算決算常任委員長】

墨田区議会の視察は、行政評価と議会改革について、視察して来ました。行政評価では、平成19年より開始され平成22年から外部評価、平成29年補助金評価、平成30年評価方式リニューアル(評価重視から事業カルテ方式への変更・令和3年外部評価変更(委員会開催方式からインターネット上の意見募集方式)と改革されてきました。実践からの改革でとても参考になりました。事例を含め詳細なところを聞きました。今後柏崎市議会でも参考にしたいと思っています。議会改革については、多くの説明をいただきましたが、特に議会事務局による提案制度がとても参考になりました。議会基本条例中「24条の1の規定する目的を達成するため、議会に対して提案を行うことができる」(全国初)この条例で職員の(モチベーション・責任感・政策立案能力)がアップされた。柏崎市議会でも導入を考えたいと思います。

#### 【村田委員】

墨田区議会における議会改革の取組について、東京スカイツリーの完成によって一気に街のイメージが変わった墨田区であるが、議会の中も変わってきたことが今回の視察から分かりました。

平成19年議会のあり方検討会設置に始まり、29年には議会改革特別委員会を設置など議会改革への取組がよく分かりました。

行政評価においても町田市ほどではないにせよ人件費への公会計制度導入により、単純にいくら執行しただけの評価だけでなく人件費にいくらというように行政評価を行っていることは当市も参考にすべきと考えられましたし、より深い行政評価への洞察につながるものとして非常に参考になりました。

また最も特筆すべき点として議会事務局による提案制度が今回の視察の中で最も参考となりました。

#### 【持田予算決算常任副委員長】

議会の本来の在り方を条例化した「議会基本条例」の下、「開かれた議会」へ着実に実績を積み上げつつあることがうかがえる。私たちも、「議会基本条例」制定に一定の苦労と学びがあったが、議会として「災害対応」を規定したことは、他にないものとして確認することができた。議会事務局による政策提案は検討の「余地あり」を感じた。

#### 【山本委員】

墨田区議会は東京都23区の中で一番議会改革が進んでいると聞いていたので、実際に話を伺って実感した。特に柏崎市議会と同様に議会基本条例を柱に、議会改革を進めており通年議会制を導入し、議員間討議や区民等の意見交換会の実施、政治倫理に関する規程の策定、災害時の対応などの取組は参考になった。

その中でも、全国のどの議会でも採用していない「議会事務局による提案制度」を議会基本条例の中に明文化している。その効果として職員のモチベーションアップ、職員の責任感のアップ、職員の政策立案能力アップなどがあり、具体的には議会のペーパーレス化や新型コロナの議会対応などの効果があったとのこと。

今回、墨田区議会の取組で学んだことを柏崎市議会でも活用できればと考える。

#### 【若井委員】

墨田区の行政評価はその目的に示されているように区民本位の効率的で質の高い行政運営の実現、区民の視点に立ち成果重視の行政運営の実現、区民に対する行政の説明責任としている。評価プロセスは当該職員による事務事業評価により

	<p>内部評価が行われたのち、学識経験者などによる評価委員会での外部評価を行っていたが、令和3年度よりこの外部評価の方式が区民からインターネットで意見を聴取することに変更された。果たして本来の目的である外部評価になりうるのか、その効果、検証について経過を知りたいところである。行政評価を活用して次期の予算編成に活用していくことが重要であると感じた。</p>
--	--